

実施要領 様式11(第13条関係)  
【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成21年7月28日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0292000015
法人名	有限会社 グループホーム逢々
事業所名	有限会社 グループホーム逢々
所在地	青森県東津軽郡蓬田村大字瀬辺地字山田1番地28 (電話)0174-31-3890
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年2月24日

【情報提供票より】(平成21年1月22日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成18年5月25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	13人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.1人

### (2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費21,000 円他	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4)利用者の概要(平成21年1月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	外ヶ浜中央病院 柳谷歯科医院
---------	----------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

村からの誘致で設立していることもあり、村在住の職員が殆どで、利用者と顔馴染みの関係であるほか、運営者は、利用者の筋力低下予防に力を入れており、敷地内にホームを一周できる遊歩道を整備している。また、東棟と西棟の利用者同士の交流を図るため、出入り口を2つ設けるなど、利用者視点のケアを基本に、より良いホーム環境を整えている。

運営者は、同業者との交流や連携を行うことの効果も認識し、グループホーム協会に加入し、同業者との交流や研修を積極的に行う方針を示している。管理者や職員は、研修会参加や他のグループホームとの交流や勉強会を通じて日々のサービス向上や職員育成につなげている。

職員は、日々利用者の視点に立ち、一緒に見る・聞くなどして利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するように努めている。また、声かけを行ったり、アドバイスを求めるなど、花壇づくり等の日常的な家事作業などを利用者と職員と一緒にやり、共同しながら生活している。

利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、ホーム周辺の散歩やドライブなど外に出る機会を設けている。また、買物や理容など利用者の希望や習慣を取り入れているほか、外出時は、利用者一人ひとりのその日の体調や意向に合わせた支援を行っている。

### 【特に改善が求められる点】

身体拘束の内容やその弊害について全職員が理解することに期待したい。利用者の安全を考えての玄関施設であるが、家族の同意を得る体制を整えることに期待したい。  
必要に応じて、1日の水分摂取量の記録を残す様式を作成してはどうか。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に、全職員で話し合って改善策を検討するなど、今後のより良いケアサービスの提供に繋げるための取組を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が、職員の意見を聞きながら作成しており、全職員で取り組んでいる。また、作成した自己評価を職員会議等で全職員に説明している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヵ月毎に開催し、メンバーは会議の意義や役割を理解し、積極的に出席している。</p> <p>会議では、行事予定や報告、内部研修の予定のほか、自己評価や外部評価結果、改善点等を報告し、意見等を引き出すよう働きかけ、出された意見等を参考にサービスの質の確保・向上に向け取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月の面会時や電話等で、利用者の暮らしぶりや健康状態等を報告している。また、職員の異動等、サービス提供に変化があった時は、広報誌等で報告しているほか、金銭管理の状況について、個別の金銭出納帳に記録し、領収書を添付して報告し確認を得ている。</p> <p>また、職員は家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めており、出された意見等は、職員会議などで話し合い改善するなど日々のケアに活かしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方と挨拶や会話を交わすことで、ホームに立ち寄ってもらえるよう声かけを行っており、地域の方が野菜の差し入れやホーム行事に遊びに来るなどの交流を図っている。また、町内へパンフレットを配布したり、地域行事に積極的に参加し、交流を図っている。</p> <p>更に、事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取組みとして、ボランティアの受け入れに取り組んでおり、外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方と挨拶や会話を交わすことで、ホームに立ち寄ってもらえるよう声かけを行っており、地域の方が野菜の差し入れやホーム行事に遊びに来るなどの交流を図っている。また、町内へパンフレットを配布したり、地域行事に積極的に参加し、交流を図っている。</p> <p>更に、事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取組みとして、ボランティアの受け入れに取り組んでおり、外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>

## 【各領域の取組状況】

領域	取組状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者や職員は、地域密着型サービスの役割を理解しており、事業所独自の理念を作成している。また、理念を職員会議等で全職員に周知し、週1回、朝礼時の唱和や玄関掲示など共有化するための取組を行っており、職員は、理念の意味を理解し、日々理念を意識しながらサービス提供場面に反映させるよう努めている。</p> <p>また、運営者は、同業者との交流・連携の必要性を認識し、グループホーム協会加入などにより同業者との交流等積極的に進める方針を示している。管理者や職員は、協会主催の研修参加や他グループホームとの交流や勉強会を持つなどし、日々のサービス向上や職員育成につなげている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>ホームの説明だけでなく、事業所の見学を行い安心してサービスを利用できるよう支援している。また、事前説明時に十分な話し合いを行い、利用者や家族等双方の意向に添ったサービス開始となるよう支援している。</p> <p>職員は、日々利用者の視点に立ち、一緒に見る・聞くなどして利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するように努めている。また、声かけを行ったり、アドバイスを求めるなど、花壇づくり等の日常的な家事作業などを利用者と職員が一緒に行い、共同しながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時には、利用者の意向を聞き、本人の達成感のあるものからモニタリング等により計画へ反映している。また、全職員の観察や記録に基づき話し合い、必要に応じて家族の意向も取り入れて作成している。介護計画は、個々の生活歴などを理解した上で、現在の状況を把握した個別具体的なものとなっている。</p> <p>事業所の多機能性を生かし、通院や馴染みの場所への外出など、移送サービスの対応を行っており、年間行事等の際にも利用者や家族の要望や希望を取り入れながら行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動を急かしたり、否定することなく、常に傾聴姿勢で、利用者のペースやその日の希望、状態に合わせた支援を行っている。また、羞恥心や自尊心を傷つけないように、一人ひとりのプライバシーにも配慮しているほか、利用者への声かけや対応について、日々の引継ぎや内部研修において職員間で確認し合い、改善するようにしている。</p> <p>また、居室には馴染みのものを持ち込むよう、家族に働きかけを行っており、ベットや布団、タンスほか利用者愛用の品が持ち込まれているほか、手作りの作品や行事の写真等を飾るなど一人ひとりに合った居室作りを行っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は、地域密着型サービスの役割を理解しており、「地域に溶け込んだグループホーム作り」など、6つの事業所独自の理念を作成している。また、理念は、地域との関わりを含んだ内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝礼時に唱和したり、玄関に掲示するなど、職員間での理念の共有化に努めている。職員は、理念の意味を理解し、利用者を尊重すること、笑顔のある暮らし、地域との交流を進めることなどを意識しながら、日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の方と挨拶や会話を交わすことで、ホームに立ち寄ってもらえるよう声かけを行っており、地域の方が野菜の差し入れや、ホーム行事に遊びに来るなどの交流を図っている。また、町内へパンフレットを配布したり、盆おどりや夏祭りなどの地域行事に積極的に参加し、事業所を理解してもらおうと共に、交流を図る働きかけを行っている。更に、事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取り組みとして、ボランティアの受け入れに取り組んでおり、外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価のねらいや活用方法等を職員会議で説明するなどし、全職員に周知しており、職員は、改善に向け取り組むための良い機会であると理解している。自己評価は、管理者が職員の意見を聞いて作成するなど、全職員で取り組んでいる。外部評価の結果を基に、全職員で話し合って改善策を検討するなど、今後のより良いケアサービスの提供に繋げるための取り組みを行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月毎に開催し、メンバーは会議の意義や役割を理解し、積極的に出席している。会議では、行事予定や報告、内部研修の予定のほか、自己評価や外部評価結果、改善点等を報告し、意見等を引き出すよう働きかけ、出された意見等を参考にサービスの質の確保・向上に向け取り組んでいる。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政へホームのパンフレットや広報誌「逢々通信」を発行の都度配布している。また、自己評価や外部評価の結果も提出し、報告を行っている。必要に応じて、利用者の利便性の向上等、生活の質を高めるための解決に向けて、行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、受講後は報告会や内部研修を行い、全職員が制度について理解を深めるよう取り組んでおり、概ね理解している。管理者は、必要に応じて、利用につなげるための支援先などの情報提供を行うなど、家族や利用者に提案できる用意がある。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や勉強会を行うことで、全職員が高齢者虐待防止法に関する理解を深めるよう取り組んでおり、管理者は、職員の日々のケアの提供場面を観察しながら虐待を未然に防ぐよう努めている。虐待を発見した場合の対応方法等について虐待防止マニュアルを作成しており、その対応方法について、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者と家族に重要事項説明書を基に、事業所の理念、ケアの方針や取り組み等について説明し、利用者や家族等が疑問や意見を話しやすい雰囲気づくりに努めている。契約の改定時や退居時には、利用者や家族に十分に説明を行い、同意を得ている。また、利用者や家族に不安を生じさせないよう、ケアマネジャー等と連携し、退去先の情報提供等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の面会時や電話等で、利用者の暮らしぶりや健康状態等を報告している。また、職員の異動等、サービス提供に変化があった時は、広報誌等で報告しているほか、金銭管理の状況について、個別の金銭出納帳に記録し、領収書を添付して報告し確認を得ている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を促したり、面会時に個別に話し合いの場を設けたり、面会時の記入票に意見の記載欄を設けるなど、話しやすい雰囲気づくりを行っている。また、内部・外部苦情受付窓口を明示しているほか、玄関に掲示し家族等に継続的な周知を行っている。家族から出された意見等は、職員会議などで話し合い改善するなど日々のケアに活かしている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及びホーム長は、担当職員の交代による利用者への影響を理解しており、職員の異動や配置換えは最小限に抑えるよう努めている。また、担当職員の異動や配置換え等を行う際には、利用者十分に説明し、新しく担当する職員への詳細な引き継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、具体的目標を決めてサービス向上に努めた職員育成を行っており、年間研修計画を作成し、職員の希望や個々の力量、経験に応じた研修を平均的に受講している。研修受講後は、復命書を提出し、日々のケアに活かせるよう内部研修を行って全職員に周知している。事業主体本部の介護事業担当者が、職員の業務に関する助言等を行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流や連携を行うことの効果を認識し、グループホーム協会に加入し、同業者との交流や研修を積極的に行う方針を示している。管理者や職員は、研修会参加や他のグループホームとの交流や勉強会を通じて日々のサービス向上や職員育成につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの説明だけでなく、事業所の見学を行い安心してサービスを利用できるよう支援している。また、事前説明時に十分な話し合いを行い、利用者や家族等双方の意向に添ったサービス開始になるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日々利用者の視点に立ち一緒に見る、聞くなどして利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するように努めている。また、花壇づくり等の日常的な家事作業などを利用者と職員が一緒に行い、声かけを行ったり、アドバイスを求めるなど、共同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の日々の状況や会話などから思いや希望、意向を把握するよう努めている。利用者の意向等が十分に把握できない場合は、家族からの情報収集を行うほか、全職員で利用者の視点に立って話し合い、意向等を把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、利用者の意向を聞き、本人の達成感のあるものからモニタリング等により計画へ反映している。また、全職員の観察や記録に基づく話し合い、必要に応じて家族の意向も取り入れて作成している。介護計画は、個々の生活歴などを理解した上で、現在の状況を把握した個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に6ヶ月の実施期間を明示しており、実施期間終了後は見直しを行っている。また、実施期間に限らず、モニタリングし、状況や意向などの変化に応じて見直しを行っている。見直しを行う際は、利用者及び家族の意向を記録し、気づきや意見を反映させるように再アセスメントを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や馴染みの場所への外出など、移送サービスの対応を行っており、年間行事等の際にも利用者や家族の要望、希望を取り入れながら行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、かかりつけ医への継続受診など利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。体調変化や心配ごとのある時には、いつでも気軽に相談することができる体制がある。必要に応じて家族を含めた医療機関との情報交換等も行い情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての重度化や終末期の対応を明確にしており、現在、看取りの指針を作成している。日常的な健康管理や急変時の対応については、本人や家族、主治医にも相談しながら事前の話し合いを行い意思統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの話しを傾聴しており、言動を否定したり拒否していない。介助時の声かけは利用者の羞恥心に配慮し、年長者と接する上で適切に行っている。また、声かけや対応について、日々の引継ぎや内部研修で確認や見直しを行っている。職員は、個人情報保護法について概ね理解しており、個人記録等は、訪問者の目に触れない会議室や事務室の書庫に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、利用者一人ひとりのペースに合わせた対応を行っており、利用者の声に耳を傾け、意向を把握することを優先している。また、利用者個々の状態や傾向を把握しており、その日の希望や体調などに合わせた支援を行っている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望や好みほか、苦手なものは別なものに変えるなど配慮されている。利用者の状況や意思等に応じて、食事の下ごしらえ等を職員と一緒にしている。職員は可能な限り、利用者と一緒に席で食事を取り、食べこぼし等へのサポートを行いながら楽しい食事時間となるよう努めている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣を把握しており、基本的には週2回の入浴であるが、日中であれば毎日の入浴も可能であり、健康状態や本人の意向などに合わせた入浴を支援している。職員は、入浴に対する利用者の羞恥心や負担感を理解した上で支援しているほか、つかりすぎ等の安全面にも配慮している。入浴を拒否する利用者に対しては、別職員で再度誘ったり、足浴や清拭へ変更するなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の会話や観察、家族から情報を得るなど、利用者の生活歴や希望、力量等を把握しており、一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促し、力を発揮できるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、ホーム周辺の散歩やドライブなど外に出る機会を設けている。また、買物や理容など利用者の希望や習慣を取り入れているほか、外出時は、利用者一人ひとりのその日の体調や意向に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束を行わないという姿勢で日々のケアを提供しており、やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族に説明し同意を得るほか、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制が整っている。外部研修へ参加し、身体拘束の内容やその弊害について全職員が理解を深めるよう取り組みを行っているが、全職員が理解するまでには至っていない。	○	身体拘束の内容やその弊害について全職員が理解することに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の外出傾向を察知できるよう見守りを行い、察知した際は付き添っているほか、無断外出時に備え、広報誌等により地域住民から協力が得られるよう働きかけている。また、居室等、日常的に出入りする場所は施錠していない。しかし、無断外出傾向の利用者が多いため、安全面に配慮し、玄関に施錠しているが、家族から同意を得るまでには至っていない。	○	利用者の安全を考えての玄関施錠であるが、家族の同意を得る体制を整えることに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対応表及び連絡表を作成しており、年2回、消防署の協力を得て、職員と利用者が一緒に日中及び夜間を想定した避難訓練を実施している。災害時の対応について、近くの施設や町会との協力体制が整っているほか、災害時に備えて、食料、飲料水、毛布の用意をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や栄養摂取状況等について保健師であるホーム長による指導や助言のもと、栄養のバランスのとれた献立となっている。1日の総摂取カロリーや水分摂取量を概ね把握し、記録しているが、必要に応じて水分摂取量を記録するまでには至っていない。	○	必要に応じて、1日の水分摂取量の記録を残す様式を作成してはどうか。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、必要に応じてマニュアルの見直しを行っており、マニュアル等に基づいた学習の機会も設けている。また、保健所から感染症に関する最新の情報収集をし、利用者や家族等に周知している。更に、日々のうがいや手洗いの励行、インフルエンザ予防接種など、予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の家具や鉢植えの植物など、家庭的な雰囲気である。また、職員の話し声やたてる物音、テレビの音量、日差し等も適切であるほか、中庭にはダルマ、ホーム内には季節の花や、利用者と職員が作った作品等を飾り、季節を感じることもできる工夫が行われている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込むよう、家族に働きかけを行っており、ベットや布団、タンス等利用者愛用の品が持ち込まれているほか、手作りの作品や行事の写真等を飾るなど、一人ひとりに合った居室作りを行っている。		

※  は、重点項目。